

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 28 日現在

機関番号：34407

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520697

研究課題名（和文） 第2次大戦直後・大阪在住朝鮮人の生活状況に関する歴史的研究

研究課題名（英文） Historic study on living conditions of the Korean resident in Osaka on time just after World War II

研究代表者

藤永 壯（FUJINAGA TAKESHI）

大阪産業大学・人間環境学部・教授

研究者番号：00247876

研究成果の概要（和文）：本研究では、在日済州島出身者へのインタビュー調査や現地踏査を中心に、第2次大戦直後の時期の在阪朝鮮人の生活状況を復元しようとした。インタビューの記録は研究代表者の勤務先の学会誌に掲載中であり、またそのうち一部を翻訳し韓国で単行本として出版した。また研究の成果を、済州4・3平和財団、琉球大学、朝鮮史研究会などの主催する学術会議で報告し、その一部は研究論文として発表している。

研究成果の概要（英文）：In this study, we wished to research living conditions of the Korean resident in Osaka on time just after World War II by the interviews and fieldworks. The records of the interviews are running in Journal of Osaka Sangyo University, and a Korean translated version was published in South Korea. In addition, We reported the result of the study in the academic conferences sponsored by Jeju April 3 Peace Foundation, University of the Ryukyus and Society of Korean History, and also announced the theses.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：現代史、在日朝鮮人、大阪、済州島、4・3事件

1. 研究開始当初の背景

本研究の調査対象地とする大阪は、日本全国で最も韓国・朝鮮人が集中している地域であり、また彼ら／彼女らは韓国の南端・済州島の出身者が多数を占めるという特徴を有している。それは朝鮮が日本の植民地支配の下にあった1920年代前半に、大阪・済州島間に定期航路が開設され、多数の済州島出身者が生活の糧を求めて来阪、定着したという

事情によるところが大きい。そして多くの済州島出身者は、日本の敗戦＝解放直後にいったん済州島に帰りながら、その後の郷里におけるイデオロギー対立がもたらした政治的混乱（4・3事件など）を避け、日本に再渡航したのであった。

このような意味で、在阪朝鮮人の歴史的体験は、日本と朝鮮の近現代史における矛盾が凝縮された事象と言える。しかし残念ながら

第 2 次世界大戦直後の時期の生活史については、文献資料の不足などにより、これまで十分な研究がおこなわれてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、第 2 次大戦直後の時期における大阪在住朝鮮人（以下、在阪朝鮮人）の生活史調査を通じて、近代日朝関係史を民衆の視点から再構築することを目的としている。とくに済州島出身者を主な対象としてインタビュー調査を実施し、これを記録する作業を行う。そのうえで各種文献資料などとも照合しながら、当時の在阪朝鮮人の生活状況を可能な限り復元する。

3. 研究の方法

本研究は歴史学的な手法を中心に進めたが、文献調査や史料批判よりもオーラル・ヒストリーの方法が中心となった。そこで研究代表者・分担者のほか、このテーマに関心をもつ連携研究者、大学院生などの研究協力者とともに調査チームを編成し、共同でインタビュー調査にあたった。調査チームは随時、研究会を開催して、個人研究の知見を持ち寄るとともに、メンバー間の認識の共有につとめた。また本研究においては韓国の研究成果の検討や、韓国の研究者との意見交換も不可欠であるため、とくに済州島の研究機関・研究者と積極的に研究交流をおこない、情報交換につとめた。

4. 研究成果

3 年間の全研究期間にわたって、随時インタビュー調査を実施し、合計 16 名のお話を伺うことができた。また大阪、済州島のほか、東京、川崎、秋田、盛岡、仙台、滋賀県一帯のフィールド調査を実施した。

インタビューの記録は研究代表者の勤務先の学会誌に掲載中であり、またこれまでの調査から 5 名の記録を韓国語に翻訳し、2012 年 1 月に韓国で単行本を出版した。また研究の成果を、済州 4・3 平和財団、琉球大学、朝鮮史研究会などの主催する学会会議で報告し、その一部は研究論文として発表している。

このように本研究は、従来研究が手薄であった解放後の在阪朝鮮人の生活史の発掘に一部寄与できたものと自負している。また本研究の成果を韓国で出版したことは、韓国との学术交流にも資するところがあったと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

- ①藤永壯、差別語の誕生、そしてその記憶—‘第三国人’について—、韓国史研究、査読有、153 号、2011、281-309
- ②伊地知紀子、泉靖一『済州島』が示す済州島研究の意義と課題、耽羅文化、査読有、38 号、2011、37-56
- ③藤永壯、高正子、伊地知紀子、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(10・上)—朴榮萬さんへのインタビュー記録—、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読無、13 号、2011、55-81
- ④藤永壯、高正子、伊地知紀子、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(9・下)—梁寿玉さんへのインタビュー記録—、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読無、112 号、2011、111-127
- ⑤藤永壯、高正子、伊地知紀子、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(9・上)—梁寿玉さんへのインタビュー記録—、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読無、11 号、2011、71-90
- ⑥伊地知紀子、日韓の海域生活者と近代—19 世紀末以降の移動経験から—、愛媛大学法文学部長裁量経費共同研究プロジェクト研究成果報告書「海域世界の知をめぐる動態的研究」、査読無、2010、20-23
- ⑦高正子、日本における在日コリアンの伝統芸能の継承、ウリチュム研究、査読有、10 号、2010、175-190
- ⑧高正子、大阪済州人の祈り—ある済州島出身女性の事例から—、コリアンコミュニティ研究、査読無、1 号、2010、15-20
- ⑨高正子、〈民俗〉の発見から「伝統文化」の誕生へ、現代韓国朝鮮研究、査読有、10 号、2010、89-99
- ⑩藤永壯、高正子、伊地知紀子、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(8・下)—金春海さんへのインタビュー記録—、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読無、9 号、2010、143-158
- ⑪藤永壯、高正子、伊地知紀子、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(8・上)—金春海さんへのインタビュー記録—、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読無、8 号、2010、69-88
- ⑫藤永壯、高正子、伊地知紀子、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(7・上)—玄瓏玟さんへのインタビュー記録—、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読無、7 号、2009、115-137
- ⑬藤永壯、高正子、伊地知紀子、鄭雅英、皇

甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(7・上)―玄瓊玖さんへのインタビュー記録―、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読無、6号、2009、85-105

[学会発表] (計 24 件)

- ①伊地知紀子、「国境をまたぐ生活圏」の形成―在日済州島出身者の生活史から―、釜山大学校韓国民族文化研究所・大阪市立大学都市文化研究センター：第2回共同学会議、2012年2月9日、釜山大学校(韓国・釜山市)
- ②伊地知紀子、帝国日本と済州島チャムスの出稼ぎ、東国大学校文化學院日本學研究所：第45回国際學術シンポジウム、2011年12月17日、東国大学校(韓国・ソウル市)
- ③藤永壯、「親日」問題と日本社会、韓国・民族問題研究所：国際学会議「親日人名辞典編纂の背景と意義」、2011年11月25日、忠武アートホール(韓国・ソウル市)
- ④伊地知紀子、在日済州島出身者の生活史調査に学ぶ、現代韓国朝鮮学会第12回大会、2011年11月19日、神戸大学
- ⑤伊地知紀子、生活史から見る在日済州島出身者の移動経路、朝鮮史研究会第48回大会：パネル2「解放後・在日済州島出身者の生活史」、2011年10月23日、立命館大学衣笠キャンパス
- ⑥伊地知紀子、日本帝国圏内の済州島出稼ぎ海女、国際高麗学会：第10回コリア国際學術大会、2011年8月25日、ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ・バンクーバー市)
- ⑦高正子、在日コリアンたちが伝承する民族芸術の変遷、国際高麗学会：第10回コリア国際學術大会、2011年8月25日、ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ・バンクーバー市)
- ⑧高正子、義鷗にける韓国人と朝鮮族の関係について、朝鮮族研究学会関西支部第2回大会、2011年7月30日 大阪市
- ⑨藤永壯、朝鮮解放後における済州島民の日本への「密航」について、琉球大学「人の移動と21世紀のグローバル社会」プロジェクトプロジェクト：シンポジウム「東アジア“間地方交流”の過去と現在―済州と沖縄を中心として―」、2011年7月10日、沖縄県教職員共済会共済会館八汐荘
- ⑩伊地知紀子、在日済州島人の移動ネットワーク―解放前後を中心に―、琉球大学「人の移動と21世紀のグローバル社会」プロジェクトプロジェクト：シンポジウム「東アジア“間地方交流”の過去と現在―済州と沖縄を中心として―」、2011年7月10日、沖縄県教職員共済会共済会館八汐荘
- ⑪高正子、4・3事件後に日本に渡ってきた女性たちの生活戦略、琉球大学「人の移動と21世紀のグローバル社会」プロジェクトプロジェクト：シンポジウム「東アジア“間地方交流”の過去と現在―済州と沖縄を中心として―」、2011年7月10日、沖縄県教職員共済会共済会館八汐荘
- ⑫藤永壯、日韓条約体制下の民族教育―外国人学校制度案を中心に―、日韓会談文書・全面公開を求める会：日韓条約締結46周年公開シンポジウム、2011年6月26日、東京都港区立勤労福祉会館
- ⑬高正子、大阪生野区コリアタウンと韓国の食べ物、そして 韓流、グローバル文化コンテンツ学会、2010年10月20日、大阪市
- ⑭藤永壯、在日済州人と「密航」、済州4・3平和財団：〈済州4・3〉62周年記念国際シンポジウム「記憶の口述と歴史」、2010年10月8日、韓国・済州大学校
- ⑮伊地知紀子、「国境をまたぐ生活圏」の生成と変容―在日済州島出身者の移動経験から―、韓国社会史学会・ソウル大学校日本研究所、2010年10月8日、韓国・ソウル大学校
- ⑯高正子、解放直後の在日済州島出身者の生活史調査の現状と課題、済州4・3平和財団、2010年10月8日、韓国・済州大学校
- ⑰伊地知紀子、泉靖一『済州島』が示す済州島研究の意義と課題、済州大学校耽羅文化研究所、2010年10月6日、韓国・済州大学校
- ⑱藤永壯、差別語の誕生、そしてその記憶―「第三人」について―、韓国史研究会：国際學術大会「植民、被植民、脱植民の精神史」、2010年8月28日、韓国・国立中央博物館
- ⑲高正子、在日コリアンの民族文化の継承、日本文化人類学会、2010年6月13日、立教大学新座キャンパス
- ⑳藤永壯、韓国における「親日」清算問題の位相、2010年度歴史学研究会大会全体会、2010年5月22日、専修大学生田キャンパス
- ㉑伊地知紀子、日韓の海域生活者と近代―19世紀末以降の移動経験から―、愛媛大学法文学部長裁量経費共同研究プロジェクト「海域世界の知をめぐる動態的研究」研究成果報告会、2010年2月23日、愛媛大学法文学部
- ㉒高正子、日本における在日コリアンの伝統芸能の伝承―在日コリアンが愛したアリアン―、第3回芸術的言説から見た韓・中・日の地域文化の再照明―京畿道編、2009年10月10日、漢陽大学ウリチュム研究所
- ㉓藤永壯、韓国の過去清算について―疑問死真相糾明委員会の活動を中心に―、京大

学現代史研究会第15回大会、2009年7月18日、芝蘭会館

- ②伊地知紀子、日韓の海域世界を通じた生活圏の生成と変容—済州島チャムスの移動から—、愛媛大学法文学部長裁量経費共同研究プロジェクト「海域世界の知をめぐる動態的研究」第2回公開研究会、2009年5月8日、愛媛大学法文学部

〔図書〕(計6件)

- ①藤永壯、伊地知紀子ほか(共著)、彩流社、東アジアの間地方交流の過去と現在—済州と沖縄・奄美を中心にして—、2012、123-141、143-164
- ②藤永壯、伊地知紀子、高正子ほか(共編著)、ソニン(韓国・ソウル市)、安住の地を求めて—在日済州人の生活史—、2012、342
- ③藤永壯、伊地知紀子ほか(共著)、済州発展研究院(韓国・済州市)、済州女性史—日帝強占期—、2011、291-344、417-446
- ④藤永壯(共著)、青木書店、「韓国併合」100年と日本の歴史学—「植民地責任」論の視座から—、2011、101-130
- ⑤伊地知紀子ほか(共著)、愛媛新聞社、植民地朝鮮と愛媛の人びと、2011、101-138
- ⑥伊地知紀子、高正子ほか(共編著)、明石書店、在日コリアン辞典、2010、456

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

藤永 壯 (FUJINAGA TAKESHI)
大阪産業大学・人間環境学部・教授
研究者番号：00247876

(2)研究分担者

伊地知 紀子 (IJICHI NORIKO)
大阪市立大学・文学研究科・准教授
研究者番号：40332829

高 正子 (KO JEONGJA)
天理大学・国際文化学部・講師
研究者番号：80441418

(3)連携研究者

村上 尚子 (MURAKAMI NAOKO)
津田塾大学・学芸学部・助教
研究者番号：
福本 拓 (FUKUMOTO TAKU)
三重大学・人文学部・研究員
研究者番号：
金 京子 (KIM KYUNGJA)
大谷大学・文学部・専任講師
研究者番号：